

ニイハオ 你好



嘉興市



京杭大運河

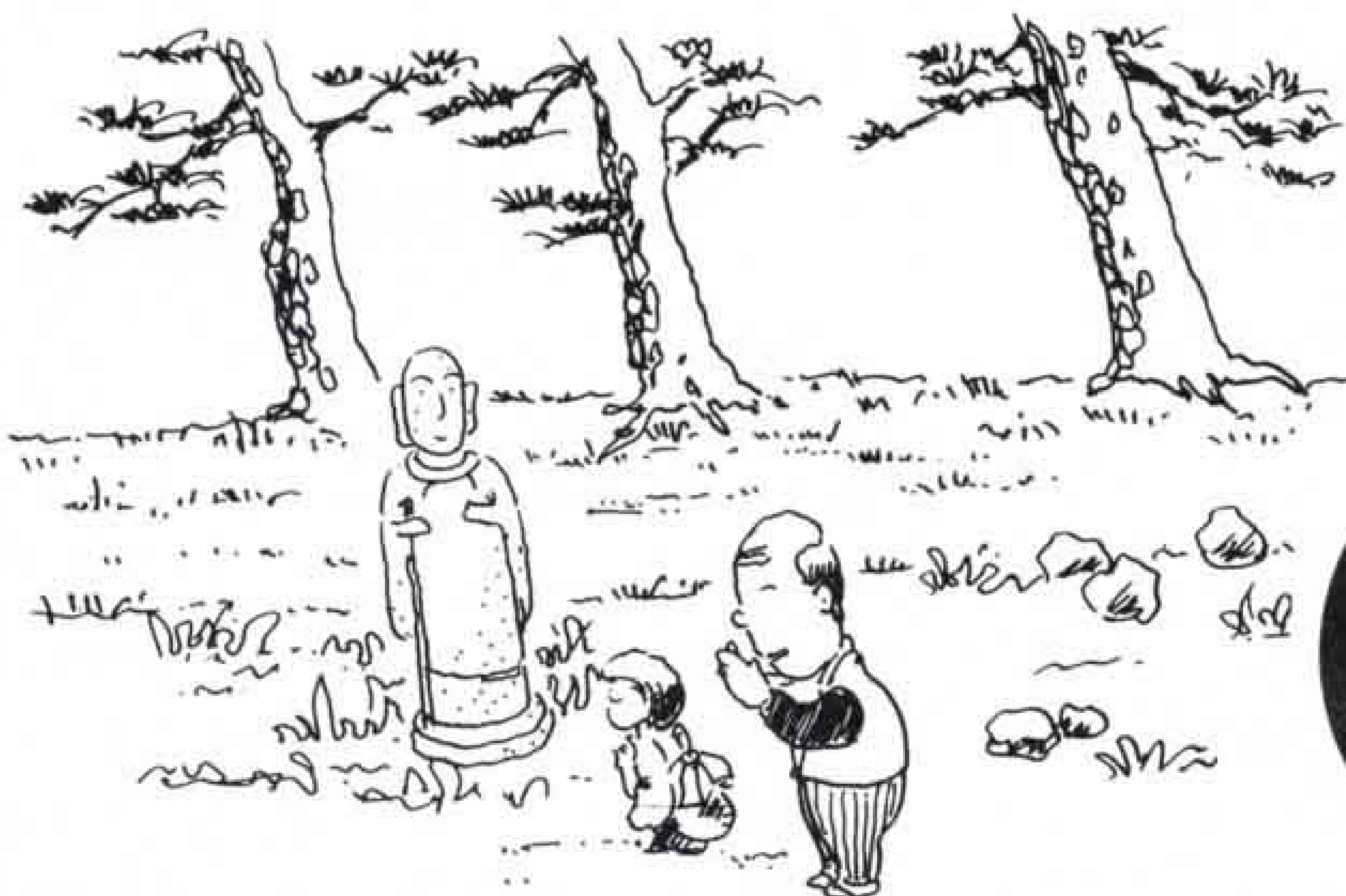
嘉興市は水陸の交通が発達して、市内の鉄道、道路、水路が市外に向かって四方八方に通じています。まさに、浙江省の交通の中核となっています。嘉興市の交通で特徴的なことは、運河が多いことですが、長さにして2,000キロ以上の内陸航行路があります。その中で特に、京杭大運河は北京から杭州を結ぶ長さ世界一の運河として有名です。

京杭大運河は、古代中国における大規模な土木事業の一つとして、万里の長城と肩を並べるものです。この大運河は紀元前5世紀、春秋時代末期、呉王夫差の命令で最初に掘られました。

その後、7世紀の初めになって、隋の煬帝が100万人の人民を使い、再びこの大計画を続けました。そして元の時代になって、現在の長さ1,794キロにまで延長されました。

京杭大運河の中で嘉興市を流れる部分は、73.72キロです。運河の兩岸に沿ってのどかで美しい風景が続き、水面には無数の小舟が走っています。

ふるさとの昔話



話してくれた
遠藤忠之さん

いいなり地蔵

平井島の

願いが何でもかなう

身延線跡地を公園にした、富士緑道の旧堅堀駅公園から北へ四百六十ほど歩くと、左手に小さな石のほこらと木造の建物があります。ほこらは山の神様を祭った山神社で、建物の中にはいいなり地蔵と呼ばれる顔の細長いお地蔵さんが祭ってあります。

この地区の村々は、古郡氏の新田開発によって新しくできたものが多かったため、村人たちが心のやすらぎを求め氏神などは、初めのうちはなかったでしょう。けれども、村の生活が安定していくに従って、このお地蔵さんもいつのころからか祭られるようになったのかもしれない。

近くに住む遠藤忠之さん（七十八歳）は、次のように話してくれました。「このお地蔵さんをお願いするだけでもかなえられたから、いいなり地蔵って言うんだよ。今でも遠く

沼津から、大漁を願ってお参りに来る人があるよ。例年八月十四日がお祭り、昔は露店商もたくさん出てにぎやかなもんだったけどねえ。だから今でも毎月十四日に、近所の女の人が集まってお題目を唱えているよ。

私らが子供のときは、ここに子供二人でかかえきれないほどの大きな松があったけど、たしか昭和七年の台風で倒れてしまったと思うな」

松が多かった松本村

また、このあたりを松本地区の中でも、古くから住んでいる人は平井島と呼ばれますが、地名の由来について遠藤さんは、

「潤井川の土手と、中堀から分かれた二つ堀の土手に、松の木がたくさん植えてあったので松本と言うんじゃないかな。平井島と言うのは、加島平野の中でもこの辺が平らだったからだと思うよ」と話してくれました。

地名の由来

荒田島

(吉原地区)



荒田島八幡神社

この村は、元和のころ（一六一五年〜二三年）田島村の農民が、富士川か潤井川をつくった砂州を開墾して「田島新田」と呼んだのが始まりです。

後に田島村から独立して、荒地を開墾したという意味で「荒田島村」と呼びましたが、その時期は明らかではありません。明治二十二年、津田村や青島村とともに合併して島田村になりました。

こちら編集室

十月下旬の日曜日、私の両親が、もみじ狩りときこの採りに富士山へ出かけました。ところが、富士山スカイラインは車の大渋滞。帰ってきて一言、「疲れた！」

でも、遠くへ行かなくても紅葉のきれいなところはあります。静岡の自然百選の一つ須津川溪谷です。見ごろは今月中旬から下旬です。